

◆トピック② 「部活動」を地域移行する―公教育の後退につながるのではないかと思いません。まず今大事なことは教職員を増やすことではないでしょうか。「女ひとり大地に行く」―いろいろ考えさせられました。

前橋市 大川 正治

◆館林市教委からの委嘱で中学校の部活動地域移行推進協議会の会長になってしまいました。教員の負担軽減には大賛成ですが、受け皿づくりや保護者の負担、生徒の要望にこたえられるものになるかなど課題山積です。

育てているジャガイモの花が咲きました。サツマイモの苗も育っています。近所の子や親を集めての芋掘り会をするのが楽しみです。

館林市 相川 敏雄

◆今号も知識を得たり（映画『女一人大地に行く』のはなし、県内にあった毒ガス演習場について（菊池実講師））、深く考えさせられたり（「部活動」を「地域移行する」ということ）、希望を感じたり（璞玉の潜む光を磨き出でん―群馬県立玉村高校を訪れて）、といった幅広い内容で大変勉強になりました。中でも『虹色のひろば』内の、「教職員が民主的な職場で仕事をできなければ、どうして生徒たちを民主主義社会の主権者に育てることができようか、この思いだったのでしょうか。」

という言葉には深く考えさせられました。

先日友人と「民主主義について」やり取りをしていました。その中で民主主義の要諦は「考えること」にあるのではないか、というアイデアが生まれました。課題、問題に気づきそれについて「考え」、その解決法を「考え」、それらを人に伝える方法を「考え」、そして実現の具体的方法を「考える」こと。その一連の流れこそ民主主義なのではないか。『璞玉の潜む光を磨き出でん―群馬県立玉村高校を訪れて』では玉村高校の生徒による校則見直しの話がありました。それはその一連の流れの結果として実現できたものと想像します。まさに民主主義の実現。大変素晴らしいことだと思います。

一方『「部活動」を「地域移行する」ということ』からは、教員の忙しすぎる状況の大きな要因になっているであろう部活動について考えさせられました。以前夫が教員の女性から「教員の妻の間では「部活未亡人」という言葉がある」と教えてもらったことがあります。夫が部活で忙しすぎて家にいる時間がほとんどない、という状態を意味するそうです。仮にそんな状態の教員が数多くいる職場は果たして「民主的な職場」といえるのだろうか？と思ったりします。時間的余裕、精神的余裕がなれば「考える」ことはできません。考えることができなければ主体的に動く

こともできません。「教職員が民主的な職場で仕事をできなければ、どうして生徒たちを民主主義社会の主権者に育てることができようか、この思いだったのでしょうか。」という先に引用した言葉は、今こそしっかり考えるべき言葉のように感じました。

高崎市 成瀬 雅俊

◆3月まで4ヶ月間のみ非常勤講師勤務を体験しました。「20人クラス」は活気があり、毎回楽しみでした。私が渋滞で遅刻すると、職員室に呼びに来る生徒がいたのには驚きを越えて感激でした。

齋藤理一郎さんの実践報告に期待します。間の中でも光る原石を感じる場での実践に。

富岡市 中東 作蔵

◆内藤真治さんの永井正取さんへの弔辞は心ゆさぶられるものがありました。

富岡市 田村 浩壽

◆「育ちと学び」は楽しみにしていた通り、満足でした。原因不明の体調不良が2年程前から続き、諸会議や集会・催物には出かけられません。車も運転しないようになりました。24年度いっぱいフォーラムを退会させて下さい。一方的で申し訳ありません。

伊勢崎市 宮崎 捷二

会員のひろば

題字：長塩三枝子

◆永井正取さんの訃報、驚きました。今号掲載の内藤さんによる弔辞を読み、思い出を振り返ることができました。弔辞にあったように、「それほどまでにあなたはみなさんから信頼され、頼りにされていました」。

「困った時の永井頼み」。ハンセン病問題に取り組む中で困っていると思わず手を差しのべて助けてくださいました。私の記憶では3回も。心からの感謝をお伝えします。ありがとうございました。またいつか。合掌

館林市 戸澤 由美恵

◆一番気になっているのは教職員の多忙です。抜本的な対策を見いだすことが難しい中で教育の崩壊が進んでいる気がします。

日本各地を旅行しています。寺社や遺跡・歴史博物館などを巡っています。抽象的な「日本」が少しずつ具体的になっていくのを感じています。

邑楽町 吉田 秀司

◆はじめまして『居場所』MONOの石崎さんの文中に、「家族以外の誰かと話したいけれど、今の自分を受け入れてもらえるか自信

がない時、(中略)そのまま受け入れてくれるところがあった!と思えるような居場所をつくりました」とあります。「自由画ひろば寺子屋」を運営していても、常に、だれでもがそのままの状態を受け入れてもらえる居場所の必要性を感じます。寺子屋もそうでありたいと思います。

高崎市 二口 孝絵

◆近現代史ゼミ「敗戦前後」を受講しました。内藤先生の講義を受けると、気分は高校生に戻ります。玉音放送の再現、さすが内藤先生! 「敗戦前後」講義にはお約束です。様々な資料に基づいたお話は説得力があり、ただ何があったかだけでなく、それらは何を意図していたのか、その後何につながったのかを知ることの大切さを改めて感じました。

私は現在、高校生に「政治・経済」を教えています。ちょうど、国際政治と日本の安全保障の単元を扱っており、本日のゼミ内容は授業とリンクしています。高校生は、素直にポツダム宣言も日本国憲法の誕生の学習内容を受け止め、平和主義の重要性を感じているようです。しかし、現在国際社会のあちこちで戦闘が起り、多くの命が失われていること、日本周辺も様々な不穏な動きがあることに不安を抱き、日本は大丈夫なのかと心配しています。ミサイルが飛んできても、日本人

は何の抵抗もできないのかと。また、自然災害で自衛隊が救援活動をする様子を見ている彼らは、自衛隊は昔からあって、当たり前のように存在と思っています。そういう彼らに、日本国憲法誕生までの経緯、自衛隊誕生のいきさつを伝えることの重要性を感じます。さらに、防衛費が増大するのはしかたがないと思わせる政府の説明やマスコミの報道に踊らされない市民を育てる必要性を痛感します。

国際協調主義、平和的生存権を謳う日本国憲法こそ、現在の混乱する国際社会に必要です。「奇跡」的に誕生した日本国憲法の意義を伝えるとともに、現在をどう受け止め、未来をどう描くかを考える時、過去を学ぶことがいかに大切かを高校生に伝えていきたいと思えます。そして、私自身も学び続けなければと思っています。

前橋市 田口 有理

◆部活の地域移行について、小学生野球は主に地域の人が指導していると思います。部活問題はそれらを参考にしてもどうでしょう。地域のママさんバレーボールなどに体育館などを貸している学校も一定程度あるのではないのでしょうか。高校野球は、昔はその高校のOBが中心になって指導していました。桐高の稲川監督などです。

前橋市 渡辺 良光